

70

もっと知りたい

武者小路実篤

『白樺』創刊

『白樺』は、明治43(1910)年4月に学習院の友人たちが集まって創刊した雑誌です。明治・大正時代の文学や美術を語るうえで、欠かすことのできない重要なものです。

*学習院は東京にある学校で、実篤たちが通いました。

『白樺』創刊号をのぞいてみよう!

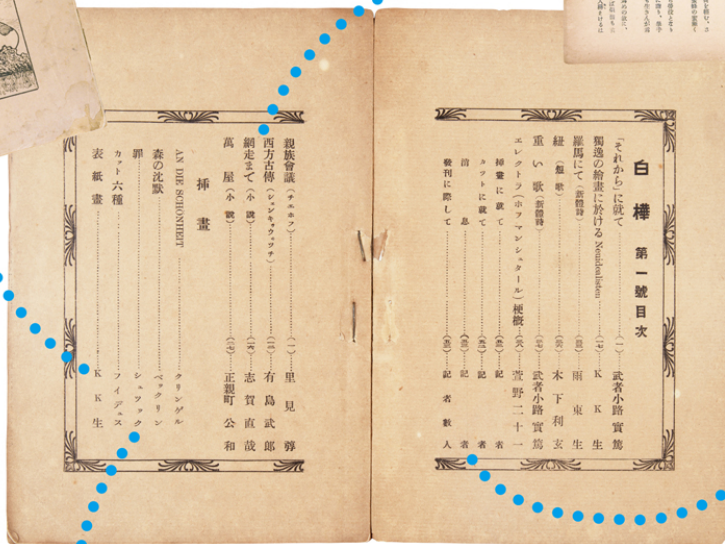
詩や短歌、小説、評論から翻訳までさまざまな文学作品があります。ペンネームを使っている人もいますね。

目次を開いてみると……

雑誌の編集を担当した人が「記者」として報告を書いています。



表紙絵を描いた「KK生」は尾島喜久雄のこと。白樺の木をモチーフにした版画です。



毎号に必ず挿絵として世界各国の美術作品の写りが載り、創刊号はドイツとスイスの画家が取り上げられています。写真だけでなく、作品の解説や作者を紹介する文章も載せました。



大正12(1923)年8月の終刊までの13年5ヶ月間、ほぼ毎月発行された『白樺』は、全号で160冊にもなります。

『白樺』は、学生による手作りの冊子『回覧雑誌』から始まります。実篤たちが『望野』という回覧雑誌を作ると、後輩たちも『麥』『桃園』を作りました。同じ目標や気持ちで活動する仲間のことを『同人』と言い、3誌の同人が中心となり、準備に1年間かけて『白樺』を発行します。

望野(自分たちがボヤボヤしているので、当て字で「暴矢」と名付け、その後「望野」としました)



武者小路実篤
1885-1976年
頑固で負けず嫌い。『白樺』の中心的な人物で、文学だけでなく美術にも関心が高かった。『白樺』全体で最初に載った作品は、実篤の評論。



志賀直哉
1883-1971年
スポーツマンで人気者。小説を多く載せ、『白樺』で活動中に小説家・夏目漱石から大絶賛される。



正親町公和
1881-1960年
編集者としての腕はピカイチ! 雑誌の名前を決める時『白樺』でなければ辞めると言ったほど、活動に強い思い入れがある。短歌などを載せた。



木下利玄
1886-1925年
本名は「としはる」と読む。のんびりした性格で、優等生。実篤とは初等学科(今の小学校にあたる)からの幼なじみ。季節や自然の短歌を載せた。

麥



児島喜久雄
1887-1950年
研究者タイプ。マイペースで絵が上手。美術が好きで『白樺』に載せた美術作品の解説を多く書いた。



園池公致
1886-1974年
正親町兄弟とは従兄弟。誰からも慕われる人柄で、体が弱けれど足が速い。小説を多く載せた。



日下 諭
1887-1938年
本名は正親町実慶、公和の弟。小説だけでなく短歌も載せた。大学卒業後、経済の道へ進む。



田中雨村
1888-1966年
本名は田中治之助。早い時期に小説を載せた。後に、邦楽(日本の音楽のこと)研究の道へ進む。



里見 弴
1888-1983年
本名は山内英夫、名字は違うが有島兄弟の四男。大の野球好き。小説や、美術について書いた。

桃園



柳 宗悦
1889-1961年
活動的でテキパキしている。宗教や哲学、美術に熱心な研究者タイプ。後に、暮らしの中に美を見出す『民藝』を広めた。



萱野二十一
1890-1924年
本名は郡虎彦。『二十一』は創刊当時の年齢で、最年少。『白樺』には、台詞で物語が進む戯曲を載せ、後にイギリスで上演された。

親友

兄弟

【『白樺』創刊時から仲間入り】



有島武郎
1878-1923年
有島兄弟の長男。まじめで親切。最年長の同人で、皆に「武郎さん」と呼ばれ慕われた。小説を多く載せた。



有島壬生馬
1882-1974年
有島兄弟の次男、後に「生馬」と改名。画家としてヨーロッパに留学し、フランスの画家・セザンヌを日本に紹介した。

兄弟

【後から仲間入り】

長與善郎
1888-1961年
柔道や相撲が強い。もとは『白樺』の愛読者で1911年頃から参加。実篤に強く薦められて小説家となる。

千家元麿
1888-1948年
詩人。生活は自由奔放だが、相手の気持ちを一番に考える性格。多い時には1度に18~35編もの詩を載せた。

岸田劉生
1891-1929年
落語が得意で相撲好き。モデルやモチーフをとことん描き込む画家で、白樺同人もターゲット。『白樺』や実篤から大きな影響を受けた。

河野通勢
1895-1950年
もとは『白樺』の愛読者で、岸田や実篤から大きな影響を受けた画家。『白樺』で展覧会を開いたこともある。

バーナード・リーチ
1887-1979年
イギリス人。ロンドンで版画を学び、来日して白樺同人に教えた。日本で陶芸を始め、柳宗悦とともに『民藝』を広めた。

ここでは紹介しきれないほど多くの仲間が『白樺』には集いました。それぞれが文学や美術など様々なことに興味を持ち、小説や戯曲、詩、研究、絵画や工芸など、思い思いの方法で自分の考えを表現しました。

志賀・岸田・木下・千家についてはもっと知りたい
31~33号で紹介